

喉の粘膜の乾燥にご注意

気温が低くなり、空気が乾燥すると、肌は勿論ですが、のどの粘膜も乾燥しがちになります。

のどの粘膜は、空中に漂っている雑菌やウィルスなどを体内に侵入するのを防ぐ大切な機能です。この粘膜が乾燥し、固まってしまうと、雑菌やウィルスを防ぐ働きが悪くなり、体内に侵入しやすくなってしまいます。

結果、風邪やインフルエンザなどを発症してしまうので、空気が乾燥する今の時期は喉の粘膜を潤わせる事が大切です。

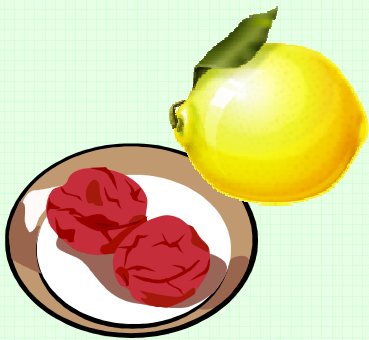
乾燥対策として、3つ方法をご紹介します。

①うがいとこまめな水分補給

基本的な事ではありますが、良くうがいをすると喉が刺激され、喉頭腺（こうとうせん）から分泌液が出て喉を潤します。また、喉の浅い部分から声帯までの深い所まで丁寧にうがいをすると、より効果的です。

こまめな水分補給は、喉の粘膜に適度な潤いを与える他、喉に付着したウィルスを洗い流してくれます。また、飲み物だけでなく食事を取り、唾液を分泌させる事も、同じくらい重要です。

特に、梅干やレモンなどの柑橘類を始めとした酸っぱい食べ物は、唾液の分泌を他の食べ物よりも多く促してくれるので効果的です。食事を摂る時間が無い場合は、飴などを舐める事で唾液は多く分泌され、粘膜に潤いを与える事が出来ます。



②加湿器を使用する

部屋の乾燥対策として最もポピュラーなのが加湿器ですが、加湿器を使用し部屋の湿度を上げると、鼻や喉の粘膜が保護されるので、呼吸が楽になる以外にも、乾燥して活発になるウィルス対策にもなります。

また、咳をした際に飛び散ってしまう飛沫も、加湿する事ですぐに床に落ちてしまうので、ウィルス対策と飛沫感染を減らす事が出来るのです。

③マスクを使用する

マスクは一般的に知られているウィルスの侵入を防ぐだけでなく、吸う空気を暖め、湿気を与える効果もあります。就寝時にマスクを使用する方も多いですが、外出する時などの乾燥対策として使用するのもオススメです。

空気中の湿気が少なくなるだけでなく、暖房の使用でも空気は乾燥してしまいますので、ウィルス対策などの一環として、乾燥対策を行ってみては如何でしょうか？

ご意見・ご感想について

施工に施工員が伺った際にお客様が気付いた点や、改善して欲しい所、FCCニュースやメールマガジンに掲載して欲しいテーマなど、ご意見・ご感想をFCCでは募集しております。

施工に入る時は、こうして欲しい・ここは気をつけて欲しいなど細かなポイントも、ご意見頂けると幸いです。

ご意見・ご感想は、お手数お掛けしてしまう形になってしまいますが、下記メールアドレスにお送り下さいますようお願い申し上げます。

皆様のご意見とご感想をお待ちしております。

ご意見・ご感想はこちらまでお願い致します。

info@fccsystem.co.jp



FCC News

2009年12月号

NO. 0070



- 目次 -

喉の粘膜の乾燥にご注意

ご意見・ご感想について

FCCブログ

エコ委員会からお知らせ

FCCシステム初期施工について

季節のムシ暦 (25)

地球の環境衛生を創造する
株式会社 FCC
fine, comfortable & creative

株式会社 FCC

住所：神奈川県藤沢市辻堂元町4-3-32

電話 0466-31-3164

FAX 0466-31-3174

URL <http://www.fccsystem.co.jp>

E-mail info@fccsystem.co.jp

FCCブログ — FCCの代表、深澤正司の『湘南ではたらく小さな会社の社長blog』より

YES BUT

ご存知ですよ？営業の鉄則です。

「ハイそうですね、おっしゃる通りです。ですが…」言葉は適切ではありませんが、「ですが」(BUT)からがこちらの切り返しトークです。主張です。

営業社員には教えます。こちらの主張を始めから言うなよ、って。まず始めに相手を尊重してからでなければ、営業なんて上手くいかないよ、って。

これは何も営業だけの話ではなく、人に絡むことは全て同じだと思います。船井総研の社長もおっしゃっていました。

部下から相談を受けた時に、まず始めに言う言葉は「分かるよ!」「お前の言っている事は分かるよ!」だそうです。

「違うよ!」「分かんねえ〜よ!」「俺はそれは納得できない!」ここから始めると、絶対に人は分かり合えないです。

人間関係がギクシャクしているところに行って見て下さい。全部こんな言葉から会話が始まっています。過去の私も実はそうでした(;´Д`)

自分の正しさだけを主張していたのです。でもそれは間違っていました。どう間違っていたのかと言うと、相手を認めていないところ。

だって、「それ分かるよ!」には、例えば自分とは違った考え方で、仮に世間からすると大きくズれている考えであっても、「自分とは違うこと」は分かるし、「世間からズれていること」も分かる。

もっと言えば、相手の喋っている内容が「分かる」訳です。だからすべて「分かるよ!」なんです。

YES BUTは対人関係で相手を尊重することだったんです!



FCCブログ — FCCの営業担当の『GOGOブログ』より

二十日大根君。

今事務所の花壇で二十日大根を育てています。

なぜ二十日大根かと言うと、植物を育てる素人ですので、強くて成長の早い食べれる物を育てたかったのです(笑)

初めはとても小さな種でしたが、二週間程たった今では何十倍も大きな芽を出しています。すごい早さで成長して、この間の台風にも負けませんでした。

急に冷え込んできましたがそれでもすくすく育っています。日々の成長を見ると、本当に植物も生きているんだと改めて実感します。

成長を見守る人の喜びや、楽しみを二十日大根から教わっているような気がします。

私も、成長を見守ってくださってくださっている方々にこんな気持ちをお返ししたいです。まさかこんなに二十日大根に気持ちが入るとは予想外でした。

でも収穫は楽しみです☆

いただく時は美味しくいただきます♪



FCCエコ委員会からのお知らせ

FCCニュース11月号でご紹介しました、エコキャップの収集活動ですが、皆様のご協力のおかげで、現在約70,000個のキャップが集まりました。ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

冬という事もあり、ペットボトルを購入する方が夏に比べると徐々に減ってきてしまっていますが、1月末までには100,000個を目標に活動を行います。

引き続き、FCCではエコキャップの収集活動を行って参ります。

是非、ご協力をお願い申し上げます。ご連絡をお待ちしております。



エコキャップ活動とは

日常生活において、頻りに利用されているペットボトルのキャップは、一般のゴミに混ぜてしまうと、焼却処分された場合はCO2の発生源になり、埋め立て処分の場合ですと土壌の汚染の原因になります。

そのキャップを分別、回収する事で再資源化を促進・CO2発生を抑制し、その売利益で世界の発展途上国で感染症やその後遺症に苦しんでいる子ども達にワクチンを届ける、というエコキャップ活動の流れになります。

キャップは400個で10円になります。
ワクチンは20円で1人分になりますので、
1人分のワクチンにキャップは800個必要です。

誰でも参加出来るのがエコキャップ活動の特徴ですので、普段何気なく捨てているキャップをまずは1つを集める、という事を始めてみては如何でしょうか？

【姿を消して行くムシ達の語るもの】



今年も「赤トンボ」の姿を見ることもなく、冬を迎えてしまった。この赤トンボは「アカアカネ」と言うムシで、水田など水辺を発生源とするが、澄みわたった「秋」を告げる代表的な「ムシ」である。
何故、この虫が、年々、姿を消すのだろうか？
この原因は何かと探った所、或る説によると農村の「破壊」と言う。確かに、農業形態の変化は「水田」の姿を変えた。
今日、米づくり、稲作の姿を大きく変えた。
この稲作と云う作業は、春先の「田植え」に始まって、除草、水干し、刈り取りと云う手順を踏むものであった。
その間に、水田環境が、赤トンボを育てて来たのだ。これが、「夏も近づく、八十八夜」の歌声も絶え、戦車のよつな「コンバイン」が、水田を圧するものに姿を変えた。
これは、言葉をかえると「環境破壊」と云うことである。この「赤トンボ」は、環境の変代を示す、自然のシグナルである。
さらに「トンボ」の姿を消すことに関連するものに、「湧き水」がある。この「湧き水」は、人に対する身近な恵みであった。

最近、面白い調査が行われた。それは、「自然しらべ2009」。身近な探検「湧き水さがし」と云うものである。市民参加型の活動で、全国2000人の人たちの調査であった。それによると全国552箇所が観察され、そのタイプは、「台地や段丘の崖沿い」の扇状地型、火山山麓型があるようで、それぞれ人の歴史があるようだ。
しかし、これも都市的な環境に囲まれてしまうと水質が劣化し、枯渇していくと云う。
なお、これから得られた生物情報は、おおよそ300件あったが、水辺のトンボ類が少なかったと云う。
このように、水環境の変化が、人の心をなごませる「赤トンボ」の姿を消すこととなっている。これは、目に見えないが、人の心をポロポロにしているのかも知れない。

姿を消す虫達が居る反面、人の生活の中にもぐり込み、被害をもたらす虫もいる。そのひとつに、「ナンキンムシ」(南京虫とも云う)なる吸血昆虫の増加もある。
一昨年に、「ナンキンムシ、特急列車を止める」と云う事故があった。これは、日本ではなく、インドの話であるが、ナンキンムシが超豪華列車を1週間にわたって運休されるなど、その被害はすくなくならざるもであった。

ナンキンムシは、人の血を吸い生活する虫であって、季節に関係なく発生する。その生活の場は、ベットや屋内の隙間などで、人と密接な場所にある。
この移動、伝播は人やその荷物で一緒なのが、厄介である。何故、これが増えたのか？その原因は、適切な衛生管理の欠落にあると云う。



化学物質による環境汚染は、問題ではあるが、それかと云ってこれに全く依存しないと云うのも問題なのである。
有害生物の管理は、化学的方法を全く否定するものではなく、経済的被害や人への影響をよく検討し、適切な手段をとる必要がある。
その手段が、最近、よく出てくる「PM「アイ・ピー・エム」と云う方法である。これは、「総合的有害生物管理」と云われるもので、人と虫の戦いの知恵なのである。

ムシは、季節を告げる仲間でもありなかなには、人の健康を損う敵もいる。敵にするか、良い仲間にするかは、人の生活環境をしつかりと見直す必要がある。
ムシを害虫にしないためにも、季節を通じて、虫との対話が、より大切である。

FCCシステム 初期施工について

FCCシステムのゴキブリ駆除は年間保守契約となっており、一年間効果の持続するコーキング剤を施工する最も大切な作業が初回に実施する初期施工です。

ゴキブリはこのコーキング剤を喫食し脱水症状を起こし、侵入してきたゴキブリも次々に死んで生きます。

まずお客様の元へお伺いしたり、店内の厨房の状況確認します。

「ゴキブリの生息状態」はどこにあるのか、どこに集中しているのか等、什器の状態、「ゴミの状態」どこに溜まっているか等をチェックし時間配分、FCCコーキング剤をベースにし薬剤の選択を行います。

次に準備をしたら、厨房内のゴミの掻き出しを行います。

什器の奥などは普段の掃除では取りきれない「ゴミ」がたまっている事が多く、その「ゴミ」を餌にしたり、巣にして「ゴキブリ」は繁殖していきます。

ですので「ゴミ」は徹底的に掻き出し、ベイト剤の喫食率を上げるとともに「巣」にならないように排除します。

そして、FCCコーキング剤を塗布していくのですが、「ゴキブリ」の生息箇所は人の目や手の届かない「什器の奥、壁との隙間、熱源部分」に多くあります。

そういった箇所を中心に施工する為、施工員は時に床這いつくばり、狭い什器に身体を強引に押し込み、奥の奥の巣に施工していきます。

近年、ベイト剤をメインに使用する駆除業者は増えていますが、業者間で差が出るのは薬剤の効力でなく、いかに手間を厭わずに確実に「ゴキブリ」の習性をふまえて薬剤を施工できるかによります。

巣に加えて「ゴキブリ」が好んで通る箇所、巣になりやすい箇所を含めると施工箇所は数百箇所になり、作業時間も数時間とかがかります。

丁寧に決め細やかに施工することにより、年間を通して「ゴキブリ」の発生を抑える土台をつくるのです。

そして施工後日に、作業報告書にて作業内容を写真付きで報告します。加えて「環境改善の提案」をさせていただきます。より「ゴキブリ」の偶発的侵入や発生をなくしていきます。

お客様のよって店舗状況は様々です。FCCでは決め細やかで手間を惜しまない初期施工を行う事によって、少々の「ゴキブリ」の発生でも手の施しのないほどの「ゴキブリ」の発生状況であっても確実に駆除に至るようになっております。

